

太子町地域公共交通計画改訂版(案)について意見を募集したところ、以下のとおりご意見を頂きました。

ご意見及びそれに対する町の考え方を下記のとおり取りまとめましたので、公表します。

記

- 1 パブリックコメント（意見募集）の実施概要
- ・ 募集期間

： 令和 7 年 5 月 1 日（木）から令和 7 年 5 月31日（土）

・ 閲覧・配布場所

： 秘書政策課窓口、情報公開コーナー、町ホームページ

・ 提出方法

： 持参、郵送、電子メール及び F A X
- 2 パブリックコメント（意見募集）結果
- ・ 提出者

： 8 名

・ 提出方法

： 持参（3） 郵送（－） 電子メール（2） F A X（3） 合計（8）

・ 提出意見数

： 65件

太子町地域公共交通計画改訂版（案）に対する意見と町の考え方

分類		パブリックコメントでの意見	町の考え方
改善内容 （案）に ついて	乗り継ぎ 券発行に ついて	「乗ってこバス」の乗り継ぎ券の発行については賛成です。しかし、金剛ふるさとバスとの乗り継ぎ券が発行できないということについては、納得がいかない。同じ町民が利用しているのにのってこバスどうしなら利用できて、ふるさとバスなら利用できないとは、「ふるさとバス」利用者にとっては不利益を被ることになる。金剛ふるさとバスは 4 市町村が運営するバスなので、自治体間で協議すれば、技術的な問題なので解決できるはず。運営を委託しているのが近鉄バスというだけで、決定権は 4 市町村にあるはず。乗り継ぎ券が、現行で200円の割引が出来るなら、乗り継ぎ券によって、近鉄バスへの支払・精算で乗り継ぎ券分を減じて支払う事にすれば良いのではないか。近鉄バスから太子町に乗り継ぎ券の提示を受けて、その分を太子町が支払えば、町民同士の不利益を解消でき、町民から歓迎される。	金剛ふるさとバスとの乗り継ぎについては、4 市町村で構成する公共交通活性化協議会にも共有し、今後の参考とさせていただきます。
		「乗ってこバス」の利用料は200円になっているが、河南町のように乗り継いでも100円で走らせている。太子町でも施設利用券が使用できた24年11月から25年 3 月までの利用者は大幅に増加している。このことは、利用しようとするニーズはあるが、料金が高いため現状の利用率になっている。したがって近隣の自治体にあわせて100円にすることが、町民の利用しやすい住民の足として「のってこバス」が歓迎されるとかんがえる。それが近隣とのバランスのとれた行政ではないか。	
		高くなった運賃に対しての配慮は、ありがたいのですが、乗り継ぎ券を発行する前に考えてみてください。太子町は、コンパクトな町。せめて町内は、乗り換えても河南町のカナちゃんバスのようにワンコイン100円に。そして運転士さんが両替をしたり、おつりを渡さなくていいように回数券の発行を。	運賃については、利用状況や金剛ふるさとバスとの整合を踏まえ、今後の検討の参考とさせていただきます。
		改善内容(案)の①乗り継ぎ券の発行ですが、「住みよい・暮らしやすい太子町」を願う方々にとって、バスが気軽に利用できることが第一です。河南町では町内どこにでも行けるようにとワンコイン100円です。障がい者は50円です。乗り継ぎ券発行と同時にこういう町民が出かけやすい環境づくりが必要です。	
		乗り継ぎ券の発行はやっていただきたいです。しかし、カナちゃんバスは100円、規模は全く違います。大阪市営地下鉄は50円で外出されているようです。外出のハードルは低いほうが望ましいです。	

分類		パブリックコメントでの意見	町の考え方
商業施設前バス停の新設について		新設について賛成です。既成の「梅川橋」からは歩くには遠すぎて、特に買い物をして帰る時、荷物を持って歩くことは年配者には困難です。西条線にバス停があれば助かる。そしてベンチと屋根があれば雨の日や、夏の日差しからの熱中症予防になり、町民から喜ばれるので、是非実現してください。	・バス停の待合環境の整備については、利用状況やバス停周辺の環境を踏まえ、検討していきます。 ・太子役場線のルートについては、今後の検討の参考とさせていただきます。 ・運行本数については、他路線の利用状況も踏まえ今後の検討の参考とさせていただきます。
		バス停が近くになると、みなさんは喜ばれています。バス停にぜひ雨・風・日よけとベンチの設置をお願いします。バスの便数を増やしてほしいことと買い物をして帰りの便がないのに困ります。	
		現行の「太子・役場線」のルートは商業施設前を通過後、バイパスを通り葉室を経由して役場に帰ることになっているが、路線の変更を提案する。バイパス経由は住民が少ない、葉室経由は他の路線が重複して通過する。したがって商業施設利用者の利便性を考えると、商業施設を経過して、太子四辻南の交差点を北上して、太子四辻で東折して役場まで帰る様にしたら、利用者は増えるはずと思われる。	
		太子西条線、カインズ前のバス停は大賛成です。帰路は太子南の交差点を左折し、太子四つ辻から太子周りで太子町役場方面に帰るルートにした方が買い物をした後利用しやすい。1日2本では少ないので増便してください。	
		今度商業施設前のバス停の新設が計画されており大いに歓迎するところですが、この運行を太子地区の住民が利用しやすいように改善していただきたい。現行では、太子町役場から梅川橋、そしてバイパスを通って葉室を回って役場に帰るルートになっています。これでは太子地区の人は新しくカインズ前にバス停が出来ても葉室に回されて役場で降ろされ、また乗り換えて太子地区に帰らねばなりません。住んでいる人の身になって下さい。こんなバスは利用できません。	
		なので、今回の改善を機会に「梅川橋～カインズ前、その後太子南の信号を左折し、太子四つ辻で右折、泥掛け地蔵前～聖徳太子御陵前、そして太子町役場」へと帰るルートとして改善願いたいのです。これであれば太子地区のバスの運行強化になると思います。みんな利用しやすくなります。	
		「太子・役場線」は平日は午前1本、午後1本の2本であるが、買い物しても、帰りの便がないので、利用する人が使いにくい。せめて土日・祝の様に、午前2本、午後2本にしてください。	
		平日の商業施設へ行くのも、帰りのバスの時間も考えてほしいです。本数も多くしてほしい。	
		バス停の新設をお願いします。梅川橋からの往復は大変です。	
太子町役場のバス停統一について		賛成です。	金剛ふるさとバスの役場への乗り入れには、車両の大きさや同時時間帯に乗り入れできる台数等に制限があるため、困難と考えられます。役場向かい側バス停については、公民館跡地の整備に伴い、移動を予定しています。また、わかりやすい情報案内も強化していきます。
		金剛ふるさとバスのバス停もひとつのバス停に。バス停が離れすぎていると間に合わなかったり、まちがって乗る人もいと聞きます。検討して下さい。	
		これで、迷わずに乗ることが出来ます。	
総合福祉センター役場線のルート変更について		現状、平日6便のうち、4便を対象に追加としているが、栄町付近については直接福祉センターに行くことは現状では困難です。したがって、この4便については、「松の木保育園前」春日西、を通過して福祉センターに行くコースを検討してもらいたい。	新たなルートの選定については、今後の検討の参考とさせていただきます。
		聖和台を通るルートを上ノ太子駅へ伸ばし春日地域を通過して福祉センターへ行ってほしいとの声が上がっています。上ノ太子駅とぶどう出荷場間の人たちは置いてきぼりです。	
		太子地区から総合福祉センターへの直通アクセスはどう考えられているのか。福祉センターから太子くんバスが出ているようですが、もっと現状を発表しセンター利用者の利便をはかっていただきたい。	
回送の活用について		賛成です。	1日8本程度の増便を予定しています。
		町内には、総合病院・耳鼻咽喉科・眼科・皮膚科がなく町外へ出かけることが多いので駅への本数が増えるのはありがたいです。	
		どれぐらい増えるかわかりませんが、便数が増えるのはありがたいです。	
		「役場～上ノ太子駅線」9時台～16時台は1時間に1本なので、2本になれば利用しやすいです。回送便でどれぐらい増えるのでしょうか。	

分類		パブリックコメントでの意見	町の考え方
計画改訂 (案)に ついて	現況・上位関連計画等について	P11住民の「自動車利用が多い」とあります。しかし駅前駐車場が1日300円か400円なのに、のってこバス往復で400円か乗り継げば倍かかるのでは車に乗れる人はバスを使いません。しかも便数は少なく終バスが早いのでは使えません。200円で1人利用するのと100円で2人利用するのでは売り上げは同じですが、住民の使い勝手は格段に違います。発想の転換をされてはどうでしょうか。	ご意見は今後の参考とさせていただきます。
		P11都市計画マスタープランについて、「まちづくりの基本目標」に賛成します。特に自然・歴史と調和した豊かな住環境をめざすまちづくりを進めたいと思います。太子町の府下における認知度はデータによって様々ですが、都心部から電車で30分で治安が良く自然に恵まれていることは誰もが認めるところです。「出来ればこんな町で暮らしたい」「自然の中で子育てしたい」とは若い人とも共有できる願いです。ならば太子町の魅力をもっと宣伝しましょう。町を美しく見せましょう。まず駅前の川沿いの雑草をきれいに刈り取りませんか。太子町の子は道ですれ違っても「こんにちわ」とあいさつします。「知らぬ人と口をきくな」ではありません。では学校の設備・環境は整っているのでしょうか。5月も人口21人減でした。町外から転入したいと思える保育・教育環境になっているのでしょうか。私の家の裏山では今日もイノシシの歩く音がしています。田舎らしさ、里山らしさをもっとアピールしませんか。「交流とにぎわい」の目標は叡福寺や和の広場の行事、神社・だんじり祭り、灯路祭りなどで盛り上がり達成されています。ただ、町内の人が中心で、町外、府下、他県からの参加は少ないように思われます。町民の「協働によるまちづくり」を具体的に進めて行かなければなりません。昔は火の用心の年末巡回もありましたが、今は町会独自の行事がほとんどありません。共に汗かく機会が無いと「まちづくり」は進みません。だんじり祭りのあの若者たちの結束に学ぶことは出来ないのでしょうか。最近のTV番組で、5/10NHK新プロジェクトXで「住民の結束が温泉街を変えた」「田舎の雰囲気をつくれ」熊本県黒川温泉というのがありました。参考にしてください。	都市計画マスタープラン担当課にも共有し、今後の参考とさせていただきます。
		P14「都市防災機能の向上」「駅から観光地を結ぶ乗り継ぎ」「乗り継ぎ案内情報の充実」「事業者の垣根を超え利用者の視点による一元的な交通サービスの展開」とあります。近鉄電車が災害で止まった場合などの交通災害に、防災無線で住民に状況を知らせる事も必要なのではないでしょうか。	P14の記載内容は大阪府が示す公共交通戦略によるものであり、同計画との連携を図っていきます。鉄道機関内の事案に関しては、同社からの情報提供によりご確認下さい。
		P16再編によって「公共交通の利用が困難な人のみ」「外出支援相談窓口」で「福祉・介護タクシー」などのサービスが受けられるようですが、有料とは明記されていません。町の補助金などの支援内容も詳しく知らせてください。	P16は令和2年度の地域公共交通の再編の考え方を示しています。新たな支援制度については広報紙やホームページなどでお知らせしていきます。
		P19全バス停から半径300mの円を描いて居住地域がほとんどカバーされているので「空白区域は無い」と言われますが、バス停から行きたい方向へ、行きたい時刻にバスが来るわけではありません。歩いたほうが早いという場合もたくさんあります。さらにバス停まで300mとは、坂の多い太子町で高齢者には負担が大きいではありませんか。バス停からスーパーや病院までも歩くのですから、もっと短くすべきではありませんか。	徒歩圏域をバス停より300m圏域（都市構造の評価に関するハンドブック：国土交通省）にて算出しておりますが、あくまで基準です。具体検討の際には地域の実態に合わせて検討していきます。
		P29施策3-3「高齢者等の外出」について、バス停に屋根とベンチは必須だと思います。スペースの制約はあると思いますが、極力、実現して頂きたい。	バス停の待合環境の整備については、利用状況やバス停周辺の環境を踏まえ、検討していきます。
		P31目標への評価指標では「住民アンケートを実施しておらず不明であるが」「快適度～情報発信の理解度」まで「6割以上」達成できたというのは根拠が無く、疑問です。「公共交通に関する意見交換会、検討会が3回」といいますが、住民の発言は少なく、この件での住民対象のタウンミーティングは1回しか開かれていません。もっと住民と意見交流をするべきではありませんか。	事業評価に関しては計画策定時に地域公共交通会議で議論頂いた上で評価しています。昨年度に利用者アンケート等を実施し、意見収集は実施していますが、ご意見は今後の参考とさせていただきます。

分類		パブリックコメントでの意見	町の考え方
	基本的な方針について	太子町の公共交通は、住みよい・くらしやすい太子町を願う住民の声を具体化する大切な計画だと思います。高齢者が「太子町は暮らしやすい町やで」と自慢できれば、若者も住み続けたいと希望の持てる町になるのではないのでしょうか。この位置づけを高めてほしいものです。	ご意見は今後の参考とさせていただきます。
		私は太子地区に住んでいますが、この計画には太子地区の公共交通の強化・充実の位置づけが欠落していると思います。P20のバスの利用状況では「町各地域から上ノ太子駅前、喜志駅に集中している」「特に役場以西、葉室地域などから喜志駅への移動が多くなっている」と分析されています。 しかし今回の改定(案)では、この「役場以西、喜志駅への移動強化」の位置づけが欠落・なくなってます。施策の実施状況を具体化したP27では、目標1、「誰もが利用できる地域公共交通網の形成」でも・地域拠点である「上ノ太子駅」、「役場」のアクセスの強化。・公共交通空白、不便地域である「聖和台・磯長台」地域と拠点間のアクセスの強化が位置づけられています。 さらに東部地域(畑・山田)～役場間を結ぶ新たな交通の運行が強調されています。 私はこのあとに、3として「役場以西(太子地区～喜志駅間)のバス運行の強化」という位置づけをすべきだと思います。ここにバス運行の位置づけがされないと、役場が計画の具体化を描けないではありませんか。太子地区住民の強い声であると受け止めていただきたい。	喜志駅へのアクセスは基幹交通として重要な役割であると位置付けており、「金剛ふるさとバス沿線等地域公共交通計画」においても位置付けているところです。ご意見は今後の参考とさせていただきます。
		P36、地域公共交通がめざす将来像として「住民の暮らしやまちづくりの土台となる持続可能な地域公共交通の実現」行政も住民も目指していきたいと思います。	計画の推進には、町、地域住民、交通事業者等の協力・連携が不可欠です。今後ともご協力宜しくお願い致します。
	目標、施策について	P42～53、目標として努力していただきたいです。 とくにP48、利用するきっかけづくりは大切だと思います。子どもはバス乗車が好きだと言うから一度乗ればまた乗ろうとするのではないかと。 P51、観光地巡り 一日乗り放題周遊チケットいいと思います。 町内の観光資源だけではツアーも限られます。河南町や千早赤阪村なども含む観光案内やツアープランが必要なではありませんか。春先には千早の水仙の丘を歩き、道の駅で地産カレーを食べるのが我が家の恒例にもなっています。 P50運転手確保ですが、賃金を上げれば人は集まります。町独自の「地域特別手当」などの財源をご検討下さい。	ご意見は今後の検討の参考とさせていただきます。 近隣市町村の観光との連携については、4市町村で構成する公共交通活性化協議会でも利用促進の一環として検討しているところです。
地域交通全般について	ルートについて	2023年12月21日以降は、ほぼ現状の路線になったが、そもそも喜志駅・役場・上の太子駅を結ぶ太子線と太子葉室循環線が確保されていた。それが、住民の声や、賛否の意思表示をする場もなく、太子線が廃止され、太子葉室循環線を近鉄バスが請け負うことになった。喜志駅、上の太子駅を結ぶ太子線が残されていたら、今日ほどのコミュニティバスの路線や、便数に苦労することはなく、絵がかけたのではないか。 町民が一番困っているのが料金の高さとともに、「便利が悪い」事です。太子地区や山田地区の人が天城医院に行くとき、乗り継いでいったとしても帰りのバスがない、バスが来ないというありさまで難儀している。役場当局はこの実情をご存じか。体調の良くない高齢者が医者にも行けないような街をつくってはいけないでしょう。若者も希望が持てないではありませんか。バスの回数を増やすために何が必要か、バスの増便を含め検討願いたいものです。 私案として、太子町役場をハブとして①②の二路線を基本としてはどうか。 ①上ノ太子駅町内周回線と太子・役場線の組み合わせ 上ノ太子駅前→聖和台→磯長台→太子町役場前→山田→葉室→上宮学園南→商業施設→梅川橋→太子四つ辻→太井川→太子町役場前→春日→上ノ太子駅前を8の字を描いて循環する路線を正転・反転交互に運行 ②畑・山田役場線と総合福祉センター役場線の組み合わせ 畑→道の駅→太子町役場前→総合福祉センター→上ノ太子駅前→聖和台→磯長台→太子町役場前→道の駅→畑 福祉センター役場線を上ノ太子駅前まで延伸し、正転・反転交互に運行 ・基本的に①②とも1時間ごとの運行とし、各停留所は毎時同時刻の発車時刻とする。 ・必要であれば、運転士の休憩や交代のため1～2便程度の空白時間帯を設ける。 ・コンビニや医療機関付近、住宅地への接続地点を基本に停留所の増設を ・運賃割引となる回数券の導入 以上検討をお願いします。	利用状況やニーズ、運行条件も踏まえ、今後の検討の参考とさせていただきます。

分類		パブリックコメントでの意見	町の考え方
運行本数、運行時間について		困難であっても、基幹路線に喜志駅・役場・上ノ太子駅にし、1時間に1本を確保することが重要だと思う。そして、その他の地域をコミュニティバスの路線を描いていけば良いと考える。町民の意見では、「せめて1時間に1本は確保してほしい」と言っている。その声にどう応えるかが自治体として重要。是非、実現してください。	4市町村で構成する公共交通活性化協議会にも共有し、今後の検討の参考とさせていただきます。
		金剛ふるさとバスで、最終バスは喜志循環線で8時25分、阪南線は9時38分、で喜志循環線は1時間早い。これを同じように9時台になるように合わせてほしい。	
		現在、混掛け地蔵前バス停を利用しています。近鉄バスに変わって1時間に1本となり不便を感じている。特に役場方面の便は午前10時までは葉室、山田方面周りのみ。主な用事は役場、農協、郵便局行きが多いが、太子周りと葉室周り交互にして欲しい。喜志駅行きも含めて便数を、のってこバスで増便してください。	
		喜志駅の最終便を遅くしてほしい。8時台では、仕事帰りで急いでも間に合わない。またバス停は吹きさらし、バスの中で待たせてほしい。	
		上ノ太子駅のように、喜志発で現行の最終バスのあと、喜志駅21時、21時30分、22時とせめて午後22時までのってこバスを運行できるよう追加、改善・強化願いたい。金剛ふるさとバス(近鉄バス)終了後、太子のってこバスでこういう運行が実施されれば、勤めている人も安心して帰宅することができ、住みよい太子町といえる状況をつくれることになるのではないのでしょうか。ぜひ、実現していただきたい。	
		畑・山田→上ノ太子駅を利用していますが、今の時間帯では買物に行っても利用しづらいです。行きは良い良い、帰りはこまるです。昼間の時間帯を増やしてもらえればありがたいです。	利用状況やニーズ、運行条件も踏まえ、今後の検討の参考とさせていただきます。
		畑・伽山などは、少人数の小回りのきく車を走らせ便数も増やすようにしたらどうか？	
		『住民の声』山田後屋地区から役場などへバスを利用している方「行きはよいよい帰りは怖い」ですと。9時2分に乘っていくと帰りは14時までないです。便数を増やしていただきたいです。	
		私の利用法ですが以前は上ノ太子駅に駐車していたのですが、駐車場が混みだして車を置けない時もあったので、この頃は車で役場まできて、その先はバスを利用しています。	
		日中、町内を走るバスの本数を増やしてほしい。町内への通院・買い物・公共施設などへ出かける人が多い。町の活性化にもつながるし、高齢の人も出かけることにより元気になる。特に、畑・山田方面の人たちは、町内で通院・買い物が終わっても帰りのバスが2時間以上ない。日中の便数を増やす検討を！	
待合・車両の環境について		バス停にベンチを置いてください。とりあえず置きスペースのある所から置いてください。	バス停の待合環境の整備については、利用状況やバス停周辺環境を踏まえ、検討していきます。
		危険なバス停の点検と安全な場所への移動を。	交通事業者、警察の意見も伺いながら、引き続き、検討していきます。
		猛暑の今日、バスの中は冷房がきいていますが、日差しが強いのでたまりません。今からでもバスの中へブラインドは付けられないのでしょうか。検討よろしく。	ご意見は今後の検討の参考とさせていただきます。
情報案内について		日常的にバスを利用する人(とくに高齢者)にとってわかりやすい時刻表を。	わかりやすい情報案内を強化します。
		基本的には改訂案には賛成であるが、現在はコミバス路線が多数あり非常に複雑である。	
交通体系について		路線バスだけでなく、高齢化社会になってくると、ドアー・ツワー・ドアーが望まれる。そうなればオン・デマンド方式も考えていかねばならない時期がきている。以前のように健常者だけの対象の方法ではなく、交通弱者にも対象を広げていくことも重視しなければならない。地域によれば、畑地域のように住民が少ないところでは、数少ない路線バスより、借上げタクシーを検討することも、合理的で、住民にも喜ばれるのではないか。借上げタクシーの利用は、人件費、車両のメンテナンスなどを考えると合理的かもしれない。	現況では、太子町の地域公共交通は定時定路線が適していると考えますが、今後の地域の状況によっては検討していく必要があると考えています。
		交通弱者に対する支援策 ドア to ドアの輸送車を増やす。介護タクシー・タクシーへの補助。地域支え合い事業所への支援(運転士不足)を。運転免許証返納者への支援制度一(河内長野市では、75歳以上の返納者1回限り、6000円のバス・タクシー券を配布)を設ける。	

分類		パブリックコメントでの意見	町の考え方
		町内をのってこバスと金剛ふるさとバスの2種類が走っているが、のってこバスに1本化できないか。同じ町民なのに利用ができない施設等利用券、乗り継ぎ券など。今後もいろいろ矛盾が出てくると思う。これまでは、金剛バスに遠慮をしていたが、今が一本化のチャンス!ぜひ実現を。	4市町村で構成する公共交通活性化協議会にも共有し、今後の検討の参考とさせていただきます。
		昨年度の施設利用券をのってこバスに利用したのは良かったが、近鉄バスの利用者も使えるようにするべき、公平さに欠ける。	
		「太子地区～喜志駅間」ののってこバス運行強化の問題で、喜志駅から太子町役場への最終バス時間の強化の問題です。 上ノ太子駅の最終バスが22時27分、喜志駅は20時25分です、何でこういう偏向が生まれるのか。私はここにも町が作成した「施策の実施状況」の中の位置づけが欠落しているから、こういう不公平が出来たと思っています。	
その他		パブリックコメントで町民のこえを聴いた!で済まさないで。行政は、地域へ出かけ、住民と向き合って声を聴き話し合ってほしい。	ご意見は今後の参考とさせていただきます。
		この意見募集は5/1～31までですが、「広報たいし」にも記載されておらず、自治会の回覧にも記述がありませんでした。住民に知らせることもなく意見を求めるということはどうするつもりなのですか？私はたまたま聞きつけて「改訂版（案）」を役場で頂きました。これでは公募になりません。本気で住民の声を聞くお積りなのか不安になります。再募集するか、やり直すか、対応をお願いします。	
		太子町に「太子町地域公共交通推進課(仮称)」を設置し5年、10年先を見通した計画を持って専門的に進める部署に。	
		4市町村地域公共交通活性化協議会に対して 協議会では、住民代表の人の意見、発言がほとんど出ない。住民の代表者はそれぞれの地域の住民の声を聴き、しっかり届けてほしい。	
		自動運転バス導入は、大阪府が一方的にするように聞いているが、今太子町に必要か！住民の生活に密着したバスこそ今、必要です。住民のいのち・くらしを守り、地域が活性化するまちづくりの土台となる公共交通 を目指してほしい。	
		高槻市では、運転士不足はない！ 運転士の確保—高槻市では、市営バスを高槻市交通部が運営。バス代は、均一区間220円、75歳以上高齢者無料乗車制度、70歳～74歳まで100円、運転士は、公務員扱いで不足なし。月給—193177 円、手当など含め 406419円労働条件の保障が必然です。	
		太子町の小中学生は約1000人ですが、通学で家族が送迎している子どもはいないのでしょうか。河南町は小学校ごとに通学バスを走らせています。	